



畜犬多頭飼育崩壊事例の救済にかかる 避妊去勢手術事業実施報告書

2023年6月26日～6月30日

北海道 佐呂間町

1. 事業実施に至るまで

●経緯

当事者が宅地に捨てていかれた犬を飼い始めたところ、年々増えていった。その後、放し飼いによる近隣住民からの苦情、係留の依頼の声があり、町が指導を毎年複数回行ってきたが全てを係留するには至らず、飼育環境の改善は見られなかった。その後も自然繁殖が続き、飼育頭数が増加した。

本人が高齢となり、飼育が困難になったことから、令和5年になり当事者の姪が動物保護団体 犬のM基金（札幌市）に救済を求めた。その後、犬のM基金の助言を受け、これ以上の繁殖を防ぐため、町がどうぶつ基金への救済支援を申請し、避妊去勢手術を実施することとなった。



（当事者宅前にて 平成30年12月撮影）

●時系列

【令和5年】

- ・ 2月3日 当事者が犬の飼育が困難になったため、姪を通じて札幌市の動物保護団体 犬のM基金に相談。
- ・ 2月10日 オホーツク総合振興局と役場職員が当事者宅を訪問し、今後の対応について確認。
- ・ 3月7日 犬のM基金から連絡があり、町と今後の対応について協議。
- ・ 同日 農協の畜産部長が来庁し、今後の対応について協議。改善に向けて農協の協力を得ることを確認。
- ・ 3月9日 犬のM基金が来庁し、町に協力を要請。
- ・ 4月24日 犬のM基金が再度来庁し、町に協力を要請。町として、支援協力を行う方向で結論を出す。
- ・ 4月28日 町からどうぶつ基金へ、多頭飼育救済支援を要請。
- ・ 5月8日 どうぶつ基金と多頭飼育救済に向けた打ち合わせを実施。
- ・ 5月11日 支援・協力チラシ（犬の世話・物資支援）を町施設に掲示。
- ・ 5月18日 どうぶつ基金が来町、現地視察を実施。
- ・ 5月22日 どうぶつ基金が避妊去勢手術を6月27日～29日で実施することを決定。手術場所を旧栄保育所に決定。
- ・ 5月24日 当事者から、避妊去勢手術にかかる同意書の提出を受ける。
- ・ 6月5日 担当者会議を開催し、手術についての連絡調整を実施。
- ・ 6月8日 町からどうぶつ基金へ出張手術申請書を提出。
- ・ 同日 当事者宅敷地内に、新たな犬舎を作る作業を開始。
- ・ 6月15日 手術協力者（ボランティア）への説明会を開催。
- ・ 6月21日 定例会後の全員協議会で町議に避妊去勢手術の事業内容を説明。
- ・ 6月23日 新設犬舎が完成。
- ・ 6月26日 どうぶつ基金が来町、手術会場を設営。
- ・ 6月27日 手術開始。29日までに76頭（オス36頭・メス40頭）を手術。
- ・ 6月30日 最終の術後確認後、手術会場の撤収。どうぶつ基金が離町。

●現場の状況

当事者は酪農家であり自宅の敷地は広いものの、犬を飼うための犬舎が不足していたため、多くが牛舎の中で飼われていた。避妊去勢手術が行われていないため、牛舎内で近親交配による出産が繰り返され、頭数が増える一方となっていた。また、牛舎内で掃除がなされないままの放し飼いとなっていたため、牛にとっても不衛生な飼育環境となっていた。

これ以上の繁殖を防ぐため、オホーツク総合振興局の指導のもと、一部の犬に対しオスメスの仕分けを実施し、牛舎外の囲いへ出すとともに、出産直後の子犬は犬のM基金が引き取りを行っていたが、根本的な解決には至らず、一日も早い全頭の避妊去勢手術が必要となっていた。

牛舎内の犬は、以前はエサを十分に与えられていたが、酪農の経営が厳しくなった近年は牛の配合飼料を食べることもあったため、当事者は親戚からの借金などでエサ代を工面していた。犬のM基金が支援に入ってから、エサの提供を受け、状況が改善している。



(牛舎内で生まれたばかりの子犬 令和5年4月撮影)

2. 手術会場

旧栄保育所

(所在地：佐呂間町字栄3番地の27)

当事者宅は手術会場として不適であるため、手術会場には現在使用していない町施設である旧栄保育所を使用することとした。当事者宅から比較的近い施設であること、住宅地に隣接しておらず鳴き声などによる近隣住民からの苦情が少ないであろうことなどを考慮し選定した。



(旧栄保育所外観 令和5年5月撮影)

3. スケジュール

近年の佐呂間町は夏季の気温が高くなることから、手術前後の犬の体調を考慮し、6月に手術を実施することにした。

6月26日（月）【設営日】

16:00 どうぶつ基金来町、手術会場の設営開始

18:00 設営完了

6月27日（火）【手術1日目】

8:30 朝礼、獣医師の打ち合わせ

10:00 手術開始（12:00～13:00 昼休み）

16:30 手術終了

6月28日（水）【手術2日目】

8:30 朝礼、獣医師の打ち合わせ

9:00 手術開始（12:00～13:00 昼休み）

16:30 手術終了

6月29日（木）【手術3日目】

9:00 朝礼、獣医師の打ち合わせ

9:00 手術開始（12:00～13:00 昼休み）

14:30 手術終了

6月30日（金）【予備日・撤収日】

9:00 術後の状態確認、手術会場の撤収

12:00 どうぶつ基金離町

4. 人員

手術に際し多くの人の手伝いが必要となることから、各方面に協力を依頼し、人員の確保を行った。その結果、町職員の他に多くの団体、個人が協力してくれることとなった。また、手術に先立ち、6月15日に手術協力者への説明会を実施した。

【協力団体等】

- ・ 犬のM基金
- ・ オホーツク獣医師会（北海道獣医師会オホーツク支部）
- ・ オホーツク総合振興局保健環境部環境生活課自然環境係
- ・ 佐呂間町農業協同組合
- ・ 個人ボランティア

5. 分担

- ・手術
避妊去勢手術を実施する。
- ・搬入搬出
当事者宅から手術会場に犬を搬入、搬出する。
- ・呼吸管理（術後ケア）
手術が終わった犬の呼吸の様子を確認する。
また、爪切りやトリミングなどの術後ケアを行う。
- ・麻酔助手
獣医師が麻酔（安定剤）を注射する際の補助をする。
- ・ケージ洗い
手術を受けている間に、犬が戻るケージをきれいにする。
- ・器具洗い
手術後の器具を洗い、消毒する。

なお、手術会場への搬入のため、ケージに犬を収容する必要があったが、ほとんどの犬が人慣れしておらず、係留されていないため、捕獲の際には町職員や農協職員ら10人ほどで板を持ち、犬を取り囲んでケージに誘導するなど、噛まれないように細心の注意を払った。



（獣医師による麻酔注射とその補助 令和5年6月撮影）

6. 手術頭数

- ・当初予定数 78 ※概数として申請した数
 - ・実施数
 - 6月27日 オス 5 メス16 計21
 - 6月28日 オス24 メス15 計39
 - 6月29日 オス 7 メス 9 計16
 - 合計 オス36 メス40 (うち妊娠6) 計76
- (未手術、死亡 なし)

7. 処置内容

- ・避妊去勢手術、狂犬病予防注射、薬品投与、目薬、補液、ダニ駆除
 - ※妊娠している犬については墮胎
 - ※狂犬病予防注射に係る費用は町が負担
- ・診療以外のケア（爪切り、耳掃除、トリミング）
- ・畜犬登録、首輪の装着
 - ※畜犬登録に係る費用は免除



(術後ケアの様子 令和5年6月撮影)

8. 飼養環境

牛舎内で生活していた犬を手術後に牛舎内に戻さないよう、新たな犬舎を当事者宅の東側の草地に設置することとした。

犬舎の設置については、資材を購入するなどして役場職員と農協職員が取り組み、6区画に30頭ほどの犬を収容できるようにした。

また、敷地内の既存の犬舎や囲いの修理・補強については、犬のM基金や個人ボランティアが行った。



(新設した犬舎 令和5年6月撮影)

9. メディア

メディア対応はどうぶつ基金が実施し、テレビ局や新聞社が当事業に対して取材を行った。

インターネットではYahoo ニュースに記事が掲載された。（「北海道佐呂間町で犬100頭と乳牛の多頭飼育崩壊が発生 どうぶつ基金が救済活動へ」（ねとらぼ）6月12日配信）

6月23日には北海道新聞朝刊に記事が掲載された。

手術1日目の6月27日には旧栄保育所、当事者宅でテレビ局や新聞社が取材を行い、当日のテレビでニュースとして放送された。

【取材メディア】

- ・北海道テレビ放送（HTB）
- ・NHK北見放送局
- ・北海道放送（HBC）
- ・札幌テレビ放送（STV）
- ・北海道文化放送（UHB）
- ・北海道新聞 遠軽支局
- ・朝日新聞 網走支局
- ・読売新聞 北見支局
- ・毎日新聞 北海道報道部北見

北海道新聞 2023年(令和5年)6月23日(金曜日)

佐呂間で多頭飼育崩壊

犬70匹超 27日から不妊手術

【佐呂間】町内に住む70代の酪農家男性の牧場敷地内で、飼い犬が増えすぎて適切な飼育ができなくなる

「多頭飼育崩壊」が発生し、動物愛護団体などが27、29日に飼い犬の一斉不妊手術を行うことが分かった。



町が21日、町議会全員協議会で報告した。町などによると、男性は数十年前から犬を飼育し、現在は78匹前後が自宅や牛舎、屋外で放し飼いとなっている。近年は、犬が敷地から脱走し、近隣住民の飼い犬を襲うなどの事案も発生。町や農協職員らが飼い犬を減らすように指導を続けていたが、男性側に改善が見られなかったため、町が公益財団法人「どうぶつ基金」（兵庫）に依頼し、不妊手術の実施が決まった。

手術では、同基金の獣医師らが、狂犬病ワクチンの接種や犬に付着したノミやタニの駆除も行う。町はワクチンの接種費用の負担や、手術後の飼育小屋の用意で協力する。佐呂間町農協によると、これまで多数の犬と同居状態にあった牛舎の牛から出荷された生乳に成分上の問題はなかった。

手術後は、男性の全ての飼い犬を希望者に譲渡する予定。引き取りの希望者は同基金のホームページ（<https://www.doubutsukin.or.jp/>）の問い合わせフォームから。（佐藤諒一）

「紋太」と飛行



赤い羽根共同募金の返礼品として贈

（北海道新聞朝刊 令和5年6月23日）

10. まとめ

旧栄保育所で3日間にわたり76頭の避妊去勢手術を実施した。行政が指揮を執る形ではあったが、過去に類を見ない事業に職員一同が手探りで取り組む中、ボランティア団体、獣医師会、オホーツク総合振興局、農協、個人ボランティアと協働して問題解決に当たることができた。

今後は、当事者（飼い主）とボランティアの負担を減らすために譲渡活動を行い、飼養頭数を減らしていくこととなるが、人慣れしていない犬が多いため、最終的に全頭が譲渡されるまでには時間を要すると思われる。

多頭飼育の問題は、避妊去勢手術の啓発などで未然に防止することも重要であり、また、当事者だけで解決することが難しいことから、相談窓口を開設するなど、支援が必要な状態になった人への早期の対応や情報提供など、今後も町としてできることに取り組んでいく必要がある。

畜犬多頭飼育崩壊事例の救済にかかる避妊去勢手術事業実施報告書

令和5年7月

編集 佐呂間町役場町民課生活環境係

〒093-0592 北海道常呂郡佐呂間町字永代町3番地の1

電話 (01587)2-1213 FAX (01587)2-3368